

平成29年11月末現在の交通事故死者分析について

はじめに

平成30年1月4日(木)付の読賣新聞夕刊に「警察は4日、昨年の全国の交通事故死者数は3,694人で、統計の残る1948年以降、最少となったと発表した。過去最少だった49年の3,790人を68年ぶりに更新し、初めて3,700人を下回った。車の安全性能の向上や、高齢ドライバーの対策が功を奏したとみられる。同庁によると、昨年の交通事故死者数は2016年度より210人減少。死者のうち2,020人(54.7%)は65歳以上の高齢者だった。飲酒運転による死亡事故は201件で、前年より12件減った」とあった。

1949(昭和24)年当時の自動車保有台数は現在の0.4%程度の約30万台だったので、画期的なことであるといえる。因みに最多は1970(昭和45)年の16,765人で、1996(平成8)年に10,000人を切ってから減少傾向が続いており、結構なことである。平成28年3月11日に定められた「第10次交通安全基本計画」においては「2020年までに24時間死者数を2,500人以下とし、世界一安全な道路交通を実現する」とされている。平成27年度の24時間死者数と30日以内死者数の比率を目標の2,500人に乗ずると、概ね3,000人になるそうである。

当協議会では平成29年度はこれまで、死亡事故が発生していない。平成25年、26年も死亡事故はなかった。今年も無事故無違反で頑張ろう。

以下は、警察庁がまとめた昨年11月末現在の交通死亡事故の分析結果の一部である。

■ 概要

交通事故発生件数は427,312件で、うち死亡事故件数(確定数)は3,252件、死者数(同)は3,312人、負傷者数(概数)は525,969人であった。前年同期と比べると、発生件数は△5.0%、死亡事故は△3.8%、死者数は△4.9%、負傷者数は△5.6%と良好であった。

■ 死者数の年齢層による特徴

65歳以上の高齢者が1,799人で全年齢層の54.3%を占めた。高齢者は、歩行中838人、自動車乗車中528人、自転車乗車中301人であり、これだけで合計1,667人となって全死者数の50.3%を占めた。

■ 死者数の状態別による特徴

多い順に述べると、歩行中が1,171人で35.4%、自動車乗車中が1,106人で33.4%、自転車乗車中が436人で13.2%、自動二輪車乗車中が417人で12.6%、原付乗車中が170人で5.1%であった。

■ 原付乗車中の年齢別死者数の特徴

15歳以下0人、16～19歳13人、20歳～24歳9人、25～29歳7人、30～39歳9人、40～49歳15人、50～59歳17人、60～64歳16人、65～69歳18人、70～74歳22人、75歳以上44人であり、65歳以上は84人で49.4%と約半数を占めた。70歳以上が66人というのは、多くの高齢者が原付を利用していることを物語る。

■ 自転車乗車中の年齢別死者数の特徴

15歳以下12人、16～19歳11人、20歳～24歳6人、25～29歳10人、30～39歳14人、40～49歳23人、50～59歳33人、60～64歳26人、65～69歳51人、70～74歳60人、75歳以上190人であり、65歳以上は301人で69.0%と約7割を占めた。我々は、自転車に乗った高齢者には特に注意して車両を運転しなければならない。

■ 原付以上運転者(第1当事者)の法令違反別死亡事故件数

漫然運転が最も多く483人(16.6%)、次いで運転操作不適396人(13.6%)、脇見運転34人(11.7%)と続く。下表がその詳細である。

法令違反内容		件数	構成率
信号無視		116	4.0%
通行区分		157	5.4%
最高速度		149	5.1%
環状 交差点	左折等方法	0	0.0%
	進行妨害	0	0.0%
	安全進行義務	0	0.0%
優先通行妨害		83	2.9%
歩行者妨害等		203	7.0%
一時不停止		98	3.4%
酒酔い運転		16	0.5%
過労運転		16	0.5%
安全運転 義務違反	運転操作不適	396	13.6%
	漫然運転	483	16.6%
	脇見運転	340	11.7%
	不注視	54	1.9%
	安全不確認	339	11.6%
	安全速度	75	2.6%
	その他	39	1.3%
その他の違反		286	9.8%
違反不明		62	2.1%
合計		2,912	100%

原付以上運転者(第1当事者)の法令違反別死亡事故件数

漫然運転については高齢者が101件を占め、同違反件数の20.9%である。また、運転操作不適については高齢者が168件を占め、同違反件数の42.4%であり、高齢化による深刻な問題が伺える。

飲酒の有無別では、飲酒ありが182件で2,912件の6.3%、なしが2,710件で同93.1%、調査不能が20件で同0.7%であった。

以上